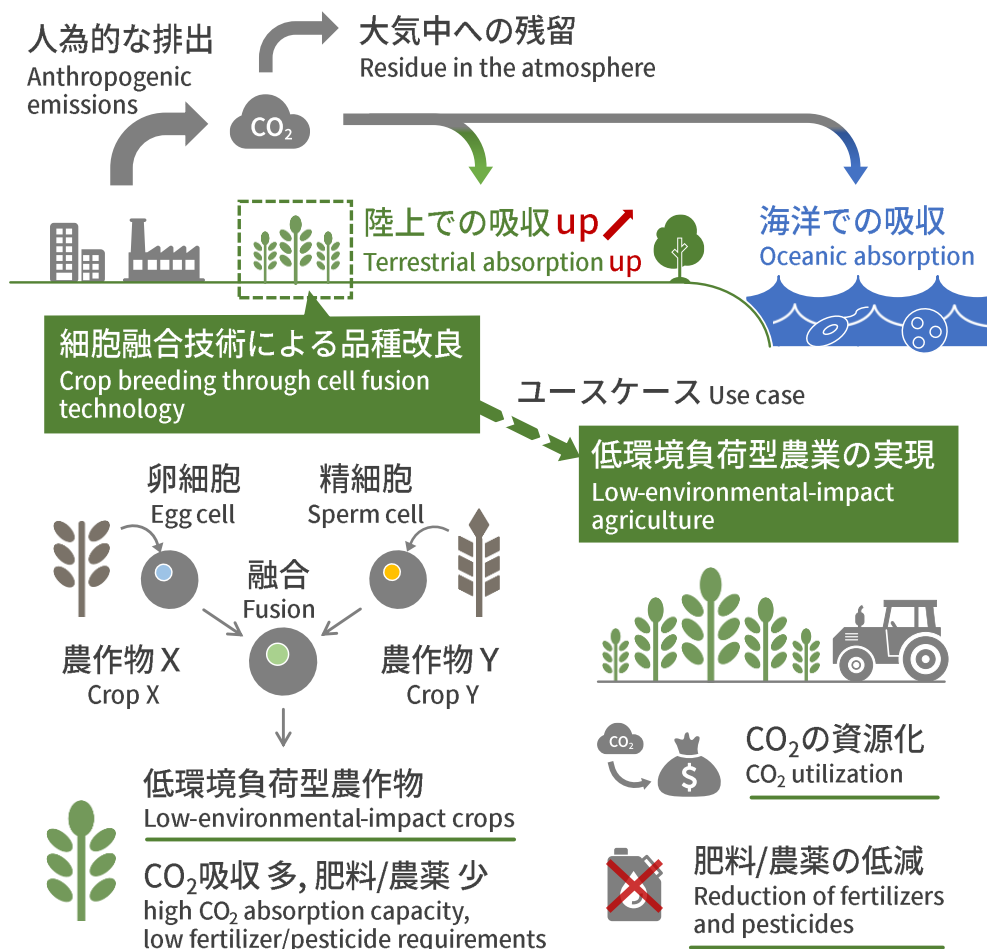


低環境負荷型農業を実現する 農作物品種改良技術

農業従事者が、農作物の効率化・多面的な品種改良により、
収益を上げながら環境負荷を低減します

#グリーントランスフォーメーション



////技術課題

農業においても環境負荷低減が求められており、農作物のCO₂吸収能力や肥料要求性の改良が必要ですが、それに適した品種改良技術は確立されていません。

////研究目標

高いCO₂吸収能力を持ちながら農薬・化学肥料の投入が不要な農作物の育成により、農業生産における環境負荷低減と収益性向上を実現します。

---要素技術

植物の低環境負荷に資する機能の多面的強化を可能とする独自の卵／精細胞の融合技術

---市中技術差異点

- ・ 農作物を対象に、世界初の卵／精細胞の融合技術を確立
- ・ 従来の農作物品種改良技術では不可能な多面的機能強化（CO₂吸収能力の向上、肥料・農薬要求量の低減など）を実現

---適用ビジネス

農林水産業分野において、農作物（イネ科作物）生産における農薬・化学肥料の投入量を低減するユースケースに適用（2027年頃）
[市場規模300億円]